さがみはら産業創造センター 編集・発行

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業 を結ぶ情報紙 ― 地域版 ―

発行 No. 49

発行日：平成29年 5月15日(月)
(2017年)

地域企業紹介 その 49

齊藤精機株式会社

78th × TECHNOLOGY
永年積み上げた確かな技術で世界に！

半導体･光学ガラス関連から自動車･航空機･衛星関連など幅広い分野の自動機や装置の設計製作･試作加工までを手掛ける齊藤精機株式会社の齊藤社長を相模原市中央区淵野辺の本社に訪ねました。

同社は昭和14年、齊藤武社長の祖父である庄三氏により東京都大森に精密機器製造工場として「齊藤製作所」を創業された。今年で78年の業歴を有する正に"老舗企業"である。創業当時の戦前は主に陸軍相模原造兵廠の協力会社として戦車用のディーゼルやノイズホルダーの加工をはじめ、軍事用部品、陸軍用ヘルメットの製造を行っていたそうだ。終戦後は自動車部品や電気部品の加工、製品加工や組み立ての際の作業位置を制御するために用いられる「治具」の設計製作などへ民需転換を図っている。

昭和40年代に入ると本田技研工業からの要請により「自動機」の設計製作を開始した。

かねてより量産品を取り扱うかスポット品を取り扱うかの選択に迫られていたそうだが、当時、同社は量産品よりも顧客の要望一つひとつに応えていく道を選択した。そこが齊藤精機のもうひとつの原点となっているのだろう。それ以来、様々な自動機･装置の設計製作を手掛け、特に半導体関連では国内外の上場企業を主な受注先としている。

(2面につづく)

齊藤精機株式会社
代表取締役社長　齊藤　武（さいとう　たけし）
所在地：相模原市中央区淵野辺1-21-18
従業員数：28名（パートを含む）
売上高：5億円
事業内容：半導体、光学ガラス、航空・衛星、自動車関係の各種専用機と装置の設計・製造、その他専用機での試作品や受託加工

（表面からつづく）

同社が取り扱う製品は設計から納品まで約1年程度の期間を要するものが多い。入口部分である設計には安全性を重視しながら顧客ニーズに合わせじっくり時間をかける。製作製造工程では主要精密部品の内製化と各種構成部品のアウトソーシングによるフレキシブルな生産体制を確立している。さらに出口部分であるプログラミングでは、オペレータの操作性を高めるため、独自のソフトを駆使し、シンプルかつスピード感を重視したものとなっている。

このように設計から製作・製造、プログラミングまでを一貫して行えるのが同社の特徴であり強みだ。まさに高い技術力から作り上げられる高品質な製品が国内外の上場企業に選ばれる由縁だろう。そして、その強みの根源は「自ら考え行動してくれる社員に他ならない」と齊藤社長は言う。

齊藤社長の父で二代目社長である齊藤實氏（現会長）から引き継ぎ代表取締役社長に就任したのは、今から二年ほど前。事業承継にあたり改めて感じることが三つあると言う。まずは一緒に踏ん張ってくれる“いい社員”がいてくれること、二つ目は自動機製作に必要な大きな建屋（全3工場）があること、三つ目は取引先と多くの外注先に恵まれていることで、先代から受け継いだ大きな財産である。

これまで、メカ・電気・ソフト設計、中核部品の内製、組立・調整の内製化を進めてきた齊藤社長は今まで以上に時代の変化や多様化する顧客ニーズへの対応に“革新性”をもって取り組んで行くことが肝要だと言う。企業にとって大切なのは人であり、世界から認知承認され、共に成長し働き甲斐のある会社に、そして、齊藤精機に来たいと言われる会社にしていきたいと語る。

使い手の安全性や操作性など様々な顧客ニーズに対応し、自動機メーカーとして着実に前進する齊藤精機は、半導体・航空機・通信衛星関連を中心とした自動機設計製作の専門集団として、その認知度は今後さらに大きく世界に広がっていくことでしょう。

入居企業紹介
53

“未知の世界”を切り拓け！ 水素・燃料電池産業参入への挑戦！

株式会社ER SYSTEMS

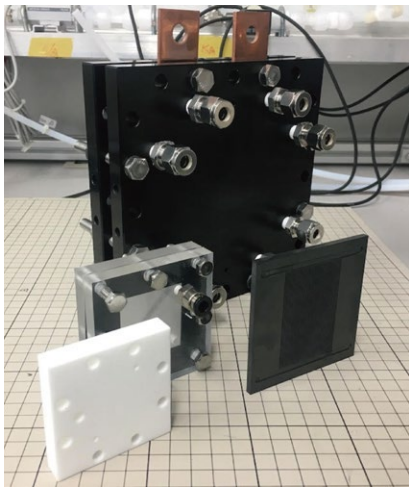
災害時や救急などの非常時に必要となるエネルギーや水、照明に関連する開発などを行っている株式会社ER SYSTEMSの原 真吾社長にお話しを伺いました。

幼いころから“未知の世界”への探求心旺盛で、天文学者になるのが夢でした。大学で環境化学工学を学び、水素の貯蔵、鉄道車両用水素発生システム、携帯型燃料電池、自然エネルギー発電、海水対応浄水器、ＬＥＤ灯具などの研究開発やプロジェクトマネージメントなどエネルギー関連の研究開発の道を進んできました。これらの経験をもとに2013年に独立し事業を始めました。

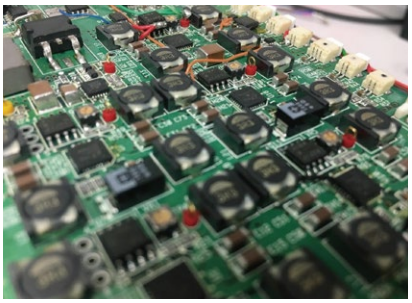
社名のERは、Renewable Energy（再生可能エネルギー）・Emergency Response（非常時対応）という意味があり、エネルギー（電気、熱など）に絡んだ様々な機器の受託開発（電気、機械、ソフト）や少ロット試作・製造調達一括代行、自社製品の開発などを行っています。

【エネルギー分野について】

オンサイト型水素蓄エネルギーシステムにおいて中核的なパーツとなる「固体高分子型電解スタック」の研究開発を進めています。これは、再生可能エネルギーなどの電気を水素ガスに変換してエネルギーを貯蔵するためなどに使用します。欧米で良い機器が開発されつつありますが、弊社でも非常に良い性能が出始めています。



また、SIC燃料電池研究会に所属し、再発電についても研究開発を行なっています。最近技術的な課題をクリアしたことで、計画を前倒しして今年度中の電解セルのファーストモデルの完成を目指しています。



【非常時分野について】

災害や救急などの非常時やリハビリ現場には、通常の生活時とはまた違った高い性能や、機能、日本人にあったサイズ感、非常時環境での使い易さ、丈夫さなどが必要です。これは自身の体験からも実感しました。

この分野には、中小零細企業だからこそ出来ることが多くある気がします。これらの開発についても引き続き企業連携で取り組んで行きたいと考えていますので、ユーザー様、商社様などこれらの分野にご興味ある方は、お気軽にご連絡ください。

株式会社 ＥＲ ＳＹＳＴＥＭＳ
SIC-1　210 号室
TEL : 042-703-1655
mail : info@ersystems.co.jp
URL: http://www.ersystems.co.jp/

What is “Incubation”？

ＳＩＣが設立され 18 年目を迎え、ＳＩＣかわらばん(地域版)も 9 年目となります。

これまでＳＩＣは、多くの地域企業様をはじめ産業振興に取り組む様々な機関・団体、行政や各関係者の方々に支えられながら、ＳＩＣの企業理念にもある「総合的インキュベーション活動」に取り組んできました。

また、さがみはら産業創造センターは“ＳＩＣ”と自らを称し、皆様からもそのようにお呼びいただいています。これは“Ｓａｇａｍｉｈａｒａ”“Ｉｎｃｕｂａｔｉｏｎ”“Ｃｅｎｔｅｒ”3 つの単語の頭文字によるものですが、真ん中のＩｎｃｕｂａｔｉｏｎ（インキュベーション）という言葉は、まだまだ一般的には馴染みがなく、「インキュベーションってなんですか？」と質問されることがあります。

今回から二回にわたり、“インキュベーション”と“インキュベーションマネージャー”について掘り下げていきたいと思います。

正しくは“ビジネス・インキュベーション”

Incubationという英語は「卵が孵化する」という意味です。

諸説ありますが、アメリカの閉鎖された工場で、その施設を小分けしてビジネスを始めようとする様々な人たちに貸し出し、経営面の支援も行いました。このことを「これはまさしくビジネスのインキュベーションだ」といった、いわば洒落から生まれた言葉と言われています。この“起業家を育成”するという考え方が徐々に広がり、今では日本国内でもインキュベーション活動を行う施設・機関が数百に及びます。

このような中、ＳＩＣは、有難いことに先進的な取り組みを行っている産業振興機関として評価をいただき、全国のインキュベーション施設からの研修、起業家育成、産業振興事業及び施設運営面についての視察を積極的に受け入れています。

インキュベーションセンター“ＳＩＣ”の誕生

時はバブル経済が崩壊した1990年代の中ごろ、国内の自治体が自ら地域産業振興を立案・施策展開を行おうという潮流が生まれ、相模原市も地域特性を軸足においた長期的構想として『さがみはら産業振興ビジョン』が策定されました。

その中の一つに相模原地域の特徴でもある製造業における政策の焦点として“産学共同”というコンセプトが打ち出され、特に“新規成長産業の創造と拠点整備”の必要性が鮮明となり、ビジネス・インキュベーションという考え方と重なり合うことでＳＩＣの原点が構想されました。

さらに「新事業創出促進法」という新たな法律が整備され、そのスキームを活用して相模原市や中小企業基盤整備機構（当時は地域振興整備公団）、金融機関や民間企業からの出資によってインキュベーションセンターである“ＳＩＣ”が誕生しました。

次回は、インキュベーションマネージャーについてご紹介します。

うどん屋　開都

町田街道の相原十字路近くにある「うどん屋『開都』」へ行って来ました。香川県でうどんの美味しさに目覚めたオーナーが、5年ほど前に埼玉県新座市から築150年の古民家を移築して開いたうどん屋さんです。お薦めの創作うどん「かいと」シリーズから「紅かいと・黄かいと（相原店限定）・海鮮かき揚げかいと」の3種類を注文しました。それぞれ違うかき揚げがのって、ボリューム満点！味も満点！かき揚げも満点！お腹もま~るく満点！おいしい昼食をいただきました。（荻島）

町田市相原町2180-1　TEL：042-775-5701　営業時間　11：00～15：30（LO.15：00）
http://udon-kaito.com/aihara/index.html　17：00～21：30（LO. 21：00）年中無休

The HINT35（SICミニセミナー）特別版

実践！成果につながる“ビジネス・コミュニケーション”

～なりたい自分へ!! 話す・聴く・質問する力を磨く～

日　　程：平成29年7月12日（水）
時　　間：13時30分 ～ 16時30分
会　　場：サン・エールさがみはら（2階・第1研修室）
講　　師：Stan Communications 代表　松尾 由紀子 氏
対　　象：経営者、従業員の皆さま（入居企業様以外も参加OK!!）
参 加 費：お一人 3,000円（税込）※当日受付にてお支払いください。

商談・営業や共同研究、チームマネジメントなど、社内外の様々な場面で、プレゼンテーションやコミュニケーションのスキルが求められます。

今回のThe HINT（特別版）は、提案内容の効果的な伝え方や、具体的なニーズや課題の引き出し方を、参加者同士のグループワークを通して学びます。さらに、『３６０度評価』という考え方を取り入れながら、“今の自分”と“なりたい自分”、“自身が考える自分”と“相手から見た自分”の間にあるズレを知ることで、“ビジネス・コミュニケーション”のスキルアップを目指すセミナーとなっています。

講師 ： 松尾 由紀子 氏

フリーアナウンサー。記者アナウンサーとしての経験から、経営者やビジネスマン向けの個別指導や、セミナー講師などを数多く務める。

2017.5 SIC EVENT CALENDAR イベントカレンダー

5月２５日（木）	第38回南西フォーラム（地域経済活性化フォーラムin相模原）「インダストリー4.0への挑戦」
5月２８日（日）	SICアントレ・インターン事前説明会
6月　１日（木）	子どもアントレ受付開始
6月　３日（土）	SIC職場リーダー養成塾開講
6月１０日（土）	SICアントレ・インターン開講
6月１７日（土）	SIC経営塾開講
7月１２日（水）	The HINT No.35（SICミニセミナー）特別版 実践！成果につながる“ビジネス・コミュニケーション”

knock! knock! 入居企業を募集してます。

SIC空室情報（平成29年5月15日 現在）※お気軽にお問い合わせください。

	部　屋	空室数	賃料/月額（共益費込・消費税抜き）
SIC-1	△スモールオフィスA（23.6㎡）2017年６月以降入居可能。	1	78,700円
	○スモールオフィスB（17.3㎡）	1	64,200円
	△スモールオフィスB（17.3㎡）2017年６月、7月、8月以降各入居可能。	3	64,200円
	△セミラボA（47.3㎡）2017年８月以降入居可能。	1	140,600円
	○セミラボB（35.5㎡）	1	98,400円
	△セミラボB（35.5㎡）2017年８月以降入居可能。	1	98,400円
SIC-2	空室はありません	-	-
SIC-3	空室はありません	-	-

○主な内容（予定）
・自分プレゼン ～相手とつながる力をアップ！～
・説得の仕方 ～回数ではなく種類を変える～
・取引先との人脈の作り方～“buy me”よりも“trust me”～
・とことん聴く力 ～相手を巻き込み、動かす～
・フィードバックの出し方 ～コミュニケーションを活性化～

○お申し込み・お問い合わせ
※下記URL 又は チラシ付属の申込書をFAXでお送りください。
主　　催：㈱さがみはら産業創造センター
電　　話：042-770-9119（担当：樽川・室伏）
U　R　L：http://www.sic-sagamihara.jp/

○会場アクセス

（相模原市緑区西橋本5-4-20）

詳しくは、SICホームページをご覧ください。
http://www.sic-sagamihara.jp

編集後記

平成２９年度も動き始めました。SICにも新しい風が吹いています。動きがあると言う事は、水や空気と同じで淀むことなく活きているということ。その新しい風が知らない間にどこかで淀まないように、ベテランも頑張って動きたいものです。さて、SIC経営塾、職場リーダー養成塾、アントレ・インターンと今年も募集中です。皆様からのお申し込みをお待ちしています。

SAGAMIHARA INCUBATION CENTER
（株）さがみはら産業創造センター（SIC）
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077
E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ご意見・ご感想をお待ちしています。

ウェブサイト http://www.sic-sagamihara.jp/

デザイン TRIAND Inc.